



＜「家族で門松をつくろう」の様子＞

## 実技講座「家族で門松をつくろう」

平成26年12月21日(日)に実技講座「家族で門松をつくろう」を実施し、11家族のみなさんが日本の伝統文化である門松のつくり方に挑戦しました。

門松は、新たな年神様を家に迎えるため玄関に一对で置く正月飾りです。その始まりは、平安時代の松飾りとされていますが、現在のように玄関前に飾るようになったのは、室町時代からです。最近では、あまり見かけなくなりましたが、その原因としては、門松をつくる人の減少によりその技術が伝承されなくなったこと、また材料の「わら」が確保しづらくなったことなどが大きいと考えられます。

今回の講座では、地元で門松をつくられている方に講師をお願いしました。講師の実演では、作業の手際よさに、全員が見入っていました。参加者からは、「縄の縛り方が難しそう」という不安の声も聞かれましたが、講師や職員の手伝いもあり、門松づくりは和やかな雰囲気の中で行われました。

門松づくりでは、はじめに台座となる部分の「こも」(「わら」を粗く編んだもの)を縄で固定しました。縄は、下から七重・五重・三重(七・五・三)に巻きました。次は、3本の竹の長さを調整して台座に入れ、周りを砂で固定しました。最後に、竹の周りに松・梅・南天などの縁起物の飾りをつけて出来上がり。完成後、みなさんは、家族でつくった高さ50cm前後の門松一对を、笑顔でお互いに見せ合っていました。これで、きっといい年を迎えられますね。

## 体験学習

### 実技講座「勾玉づくり上級編」

本講座は、今年度新たに実施しました。製作するのは、体験活動室で行われている勾玉よりも形が複雑な子持勾玉です。

子持勾玉は、大型勾玉に小型勾玉が付着するようにつくられた玉のことです。

製作は、小型勾玉を金属やすりや彫刻刀で削り出すため、細かい作業となります。このため受講者の方は、完成した作品に達成感を感じていたようです。



＜子持勾玉を製作中の受講者＞

### 実技講座「埴輪づくり」

全2回のこの講座は、10月19日（日）に形づくり、11月23日（日）に野焼きを行いました。埴輪のモデルとしたのは、泉崎村原山1号墳出土の人物と鳥の形象埴輪です。



＜形づくりの様子＞

形づくりでは、体のバランス、顔の表情や細かな装飾など、簡単そうに見えてとても難しく、改めて当時の人びとの技術の高さに驚かされました。



＜野焼きの様子＞

野焼きでは、受講者にも薪をくべてもらいながら、約半日間かけて焼き上げました。

製作した埴輪は、実物よりもはるかに小さいもの。腕を磨いて、次は実物大にも挑戦してみたいですね。

## 企画展示案内

### 収蔵資料展「磐越自動車道の遺跡—会津盆地の弥生時代—」

会期：平成27年2月7日（土）～5月10日（日）

会場：まほろん特別展示室（入場無料）

弥生時代とは、稲作が定着し富が蓄積された一方で、争いが起こり「クニ」ができた時代とされています。しかし、その文化の受け入れ方は地域によって異なっていました。

今回の展示は、特に土器・道具とお墓の変化に示される地域間交流に注目して、現在、全国でも有数の米どころである会津盆地における弥生文化の展開と画期およびその背景を紹介するものです。

土器は、形や文様などの違いから年代差とともに地域差も知ることができ、地域間交流を探るのに適した資料です。会津盆地の弥生土器は、屋敷遺跡（会津若松市）や能登遺跡（会津坂下町）など、縄文を多用しており縄文土器のなごりを少なからず残しています。ところが、弥生時代の終末になると他地域の土器、なかでも文様のない北陸系の土器が増加していきます。

これと軌を同じく

して、道具も大きく変わるようです。桜町遺跡（湯川村）から出土した鍬や木製品は、鉄器で加工された痕跡を残しています。和泉遺跡（会津若松市）などから発見された石器と比較すれば、大規模開発が可能になったことは明らかです。この時期に、会津盆地で本格的な稲作が開始されたのでしょうか。桜町遺跡からは、稲粃も出土しています。

また、この時期にお墓も変化しました。それまで用いられていたお墓（土坑墓・土器棺墓）とともに、新たに「周溝墓」が作られるようになりました。これもやはり北陸地方から伝わったお墓と考えられます。そして、次の時代には古墳が作られるようになり、ヤマト王権の枠組みに入ることになります。

このように、会津地方の弥生時代は、その終末に北陸地方からの文化が流入することで大きな変化をとげることになったのです。

展示では、磐越自動車道の建設に先立って発掘調査された遺跡を中心に、会津盆地に位置する遺跡をまじえて解説します。



＜会津盆地と磐越自動車道＞

＜会津盆地の弥生土器＞

## まほろんイベント

### 「まほろん秋まつり」

11月3日（月・祝）に、まほろんイベント「まほろん秋まつり」を開催し、476名のお客様にご来館いただきました。

当日は、勾玉づくりや火おこし体験など定番メニューに加え、次のような特別メニューも行いました。

- ・カラムシからアクセサリーをつくろう
- ・双六道場
- ・縄文クッキーを焼いてみよう
- ・バックヤードツアー
- ・「まほろんを描こう」授賞式
- ・まほろんグッズ抽選会
- ・福島県立図書館移動図書館

なかでも人気が高かったのは、「カラムシからアクセサリーをつくろう」で、大人も子供も楽しそうに、自分で作ったストラップや腕輪などを見せ合っていました。

また、縄文時代の代表的な食材であるドングリ粉を使った調理体験「縄文クッキーを焼いてみよう」にも、多くのご家族が参加し、縄文時代の味覚を楽しんでいました。

平成27年2月15日（日）には、「まほろん冬まつり」を開催します。ぜひ、またご来館ください。

### 「まほろんもちつき大会」

12月7日（日）に、平成26年度まほろんもちつき大会を開催しました。当日は、朝からチラチラと雪が舞い散る、寒い一日でした。

もちつきは、お正月や祝い事などの時に、<sup>きね</sup>杵と<sup>うす</sup>臼を使って行います。杵と臼は、弥生時代に大陸から、稲作とともに日本に伝わりましたが、主に<sup>だっご</sup>脱穀用として用いられてきました。現在では、もちつきの道具として使われています。まほろんでは、お正月の伝統行事としてのもちつきを、お客様に体験していただき、伝統文化に親しむ機会を設けたいと思っています。

もちつき大会は、まほろん職員によるもちつき実演から開始です。約5kgの杵で行う、ダイナミックなもちつきに、子どもたちからは、「ヨイショ、ヨイショ。」と掛け声が上がりました。



＜千本杵によるもちつきの様子＞

その後は、お客様によるもちつき体験です。白河市表郷地区に伝



＜「カラムシからアクセサリーをつくろう」の様子＞



＜「縄文クッキーを焼いてみよう」の様子＞

わる、もちつき唄をBGMに、子どもたちは千本杵によるもちつきを行いました。搗くたびに米粒が、おもちへと変わる様子に子どもたちは、釘付けとなっていました。



＜体験広場でのたこあげの様子＞

当日は、もちつき大会特別メニューも行いました。

- ・鏡もちづくり体験
- ・きなこづくり体験
- ・たこづくり体験
- ・福島県文化センター移動こども映画会

お正月と言えばたこあげ、ということで、たこづくり体験は大盛況。和紙と藤づるで作るたこは、軽くて丈夫です。体験広場では、親子でたこをあげる風景が見られました。また、鏡もちづくり体験では、地元の方にお手伝いいただきました。あっという間に、丸まっていくおもちに、子どもも大人も感心しきりでした。

## 文化財講演会

「ふるさとを守るために～陸前高田市における文化財レスキュー～」

11月8日（土）に陸前高田市立博物館学芸員くまがいまさるの熊谷賢氏を講師として、上記の講演会を開催しました。当日は、多くの方々が聴講され、報道機関の取材も入りました。

東日本大震災で壊滅的な被害を受けた岩手県陸前高田市。街の復興とともに、博物館等の収蔵資料の復旧も進められています。講演は、被災現場から約46万点の資料を救出した経緯、海水に浸かった文化財の処理方法やその困難さ、今後、更なる方法を模索していくことの必要性について話され、その被害の甚大さを改めて感じる内容でした。最後に、「文化財の残らない復興は本当の復興ではない。」との強い意志を持ち、職務に当たっていきたいと話され、講演を終えられました。



＜講演会の様子＞

聴講者にとって、被災文化財の現状と今後の課題について実際に知る大変有意義な講演会となりました。

## 研修だより

10月～12月の研修の様子と、今後の研修

10月25日（土）に「文化財と関連科学」を開催し、考古遺物の年代測定方法の一つである、放射性炭素年代法の原理、有効性や問題点などについて学びました。



＜「無形の文化財研修」の様子＞

11月22日（土）の「無形の文化財研修」では、民俗技術の保護と活用、特に南相馬市小高区に残る「小高箕」の製作技術の伝承が困難な状況にあり、その保護の方法や意義について学びました。12月21日（土）には「考古学専門研修」を開催し、津波被害にあった杢形遺跡くつかた、地震被害を受けた荒井広瀬遺跡など、仙台市内の遺跡を例として、過去の災害とその調査方法について学びました。

なお、1月24日（土）には、「文化財保護・活用専門研修Ⅱ」をまほろんで開催します。また、2月21日（土）には、「地方史研修」として、浜通り地方の代表的な文化財とその保全活動、地域の再興についての研修会をいわき市で開催します。

## 文化財の保管と展示

被災文化財復興展が閉幕

1月12日（月）に被災文化財復興展「救出された双葉郡の文化財Ⅲ」が閉幕しました。展示されていた資料は、特別展示室から仮保管施設へ戻されました。

仮保管施設は、双葉町・大熊町・富岡町の各資料館から救出された文化財を一時的に保管するための収蔵庫で、劣化の原因となる光や温湿度等の影響を極力抑える機能を備えています。

文化財は保管だけでなく、展示・公開も重要です。しかし、展示会では、照明等の影響がありますので、

資料によっては長期間の展示に耐えられない文化財もあり、会期中に展示替えを行う場合があります。

今回、まほろんで公開された双葉郡の文化財は、約3か月の展示期間を終え、仮保管施設の中で休息しています。



＜仮保管施設における資料の保管状況＞

## まほろんからのお知らせ

各種実技講座、受講者募集！

今年度の実技講座も、残りあと3講座となりました。寒い冬を暖かく過ごすために、ピッタリの講座ばかりです！是非ご参加ください。

・「古代の鏡をつくろう」…1/25（日） ・「縄文土器づくり上級編」…1/31（土）、2/1（日）、3/7（土）  
・「ガラスと組紐でアクセサリをつくろう」…2/22（日） ※詳しくはホームページをご覧ください。

## ご利用案内

開館時間 9：30～17：00（入館は16：30まで）  
休館日 月曜日（月曜日が祝日・休日の場合はその翌日、ただしGW・夏休み期間中は開館）、国民の祝日の翌日（土曜日・日曜日にあたる場合は開館）、年末年始（12月28日～1月5日）  
入館料 無料（体験学習によっては、材料費が必要な場合があります。）  
その他 団体（20名以上）でご利用の場合は、事前にご予約ください。